

青年就農給付金／農業次世代人材投資資金を活用した先輩農業者のすがた(研修を受けて就農されたみなさん)

【準備型】

研修内容 採択年度	水田	野菜	果樹	花き・花木
令和3年(2021年)		秋田県 藤澤 大和 さん 長野県 工藤 奈津美 さん 滋賀県 川崎 香 さん	山口県 金子 雅人 さん	
令和2年(2020年)	山形県 匿名希望※ さん	栃木県 島野 優一 さん 東京都 赤塚 功太郎 さん	岩手県 大櫻 裕之 さん	
令和元年(2019年)		神奈川県 飯野 広士 さん 高知県 埜下 真樹 さん 大分県 平井 聡 さん	愛知県 杉本 泰祐 さん	
平成30年(2018年)		宮城県 齋藤 実 さん 山形県 齊藤 勝久 さん 千葉県 若菜 紘幸 さん 京都府 角田 忠司 さん 大阪府 西野 朱樹 さん 島根県 匿名希望 さん 福岡県 白谷 大吉 さん	佐賀県 原田 諭 さん 岡山県 坂口 雄幸 さん	
平成29年(2017年)		広島県 小山 裕士 さん 宮崎県 川添 圭路 さん	埼玉県 松山 健吾 さん	
平成28年(2016年)	新潟県 本間 恭介※ さん	鹿児島県 山田 豊 さん	香川県 岡田 凌 さん	
平成27年(2015年)			愛媛県 野本 昌平 さん	
平成26年(2014年)		茨城県 中村 敦 さん	富山県 高桑 健 さん	
平成25年(2013年)				北海道 齊藤 義也 さん
平成24年(2017年)		群馬県 永田 亮 さん		

※ 複数の類型について研修

北海道

齊藤 義也 さん (41歳)

研修先：先進農家
研修内容：花卉

新規就農を志した経緯・背景

農業を営む友人たちが地域農業をけん引している姿に刺激を受け、農家に挑戦したいと考えるようになる。会社勤務の傍ら、農家を手伝ううちに農業の奥深さに魅せられたこと、当別町で出会った農家がつくるユリの花に感動したこともあり、妻と共に就農を決意した。

研修中に工夫したポイント

- ・指導農家の「やるもやらないも自分の責任」という教えのもと、研修1年目は花卉の生産管理や機械整備、経理などを学んだ。研修2年目には、一部のハウスは管理を任せられ、一連の作業を夫婦二人でやり遂げた。
- ・研修先以外の農家でも可能な限り働き、農業経験を積みながら資金の確保に努めた。

資金の活用例

主に生活費



今後の取組

花卉（ユリ）の経営を主軸に、農業経営を法人化し、労働力の安定化と複合経営による堅実な農業経営を図る。

就農に向けた推移と今後

研修（H25～H26）

- ・平成25年に研修開始。
- ・花卉の生産管理や機械整備、経理などを学ぶ。
- ・研修先以外の農家でも働き、経験を積む。

就農時（H27）

- ・研修先農家の経営の一部を継承し営農を開始。
- ・ハウス5棟からスタートし、ユリを中心に生産。
- ・平成28年からは研修先農家の経営を全て継承し、第三者継承が実現。

現在（就農8年目）

- ユリ（102a）
木苺（60a）
露地花き（90a）など
- ・令和3年からイチゴの生産を開始。
- ・当別花卉生産組合の副組合長等を務める。

今後の目標（就農10年後）

- ユリ（112a）
木苺（80a）
露地花き（90a）など
- ・農業法人化
- ・イチゴの作付面積の拡大。
- ・イチゴの6次産業化。

大櫻 裕之 さん (48歳)

研修先：農業大学校／先進農家
研修内容：果樹（栽培技術、販売方法）

新規就農を志した経緯・背景

東京で会社員として働いており、農業経営を継ぐことについて具体的には考えていなかった。しかし親が高齢となっていることを目の当たりにして、親が健在であるうちに技術・農地を継承し、美味しいりんごを作り続けたいと思ったため、就農を決意。

資金の活用例

- ・研修中の生活費
- ・就農準備費等



研修中に工夫したポイント

- ・Uターンして、就農の為に実家の手伝いから始めたが、不明点が多く、農業の基礎知識を学びたいと思ったことから研修をスタートした。
- ・両親の知見のない栽培技術や経営管理について、効率よく収量や経営の効果を上げる方法がないか、という視点を持って研修した。
- ・研修での出会いから人脈を広げ、良質なたい肥や苗を購入したり、販路拡大の足掛かりにしたりしている。

今後の取組

将来的に法人化することで、労力確保及び人材育成を図りたい。

日本型直接支払の活動を通じて地域全体の農地保全に努めるとともに、地域コミュニティの維持に資する取組に発展させたい。

就農に向けた推移と今後

Uターン・就農準備 (R1～)
東京での会社を辞めてUターン

- ・岩手から東京に毎週通う生活を止め、実家の農作業の手伝いを開始。
- ・技術を基礎から学びたいと市職員に相談。

研修 (R2～3)
りんご・ブルーベリーの栽培管理全般

- ・令和2年に研修開始。
- ・農業大学校、農業高校、先進農家で、栽培実習、機械操作やマーケティング等、幅広く学習。

現在 (就農2年目)
りんご(125a)、ブルーベリー(3a)、施設野菜(4a)

- ・令和4年に就農。
- ・りんごは獣害に苦しめられながらも、JA及び個人販売で出荷。
- ・りんごジュースを委託製造し、花巻空港等で販売。

今後の目標 (就農10年後)
りんご(125a)、ブルーベリー(3a)、施設野菜(4a)

- ・りんごの安定生産と、加工品の販路拡大を目指す。
- ・自身の経営だけでなく、地域の若手農業者と力を合わせ、農業で地域を活性化させていきたい。

齋藤 実さん (36歳)

研修先：先進農家
研修内容：露地野菜

新規就農を志した経緯・背景

- ・7年間会社勤めをしましたが、会社員としての限界を感じ、自営業者として独立を考えました。その際、両親が営んでいた農業に以前から関心があり、農業で頑張っていきたいという気持ちから、継承しようと決めました。

研修中に工夫したポイント

- ・作業の効率を意識して研修をおこなっていました。
- ・地元コミュニティにも参加し、地元農家とのつながりを構築しました。(就農後は共同出荷を行っている)
- ・先端の情報を得るため、農業資材の展示会への参加や種子メーカーのイベントなど積極的に参加しました。
- ・経営状況を把握するため、青色申告など経理に関する勉強をしていました。

資金の活用例

主に、研修中の生活費として活用しました。



今後の取組

生産資材の高騰により、年々原価率が上がってきているので、生産・出荷時の経費削減の工夫を考えていきたい。また、天候による影響を加味しリスク分散を意識した生産計画を立てる。

就農に向けた推移と今後

研修 (H31～R1)

農作業全般 (野菜露地栽培)

- ・平成31年に研修開始。
- ・主に、レタス、曲がり葱などの栽培技術の研修。

就農準備 (R1)

農地の生前贈与、
農地名義変更の準備

- ・仙台市農業委員会、法務局への相談。
- ・就農したR2.3に継承が全て終了。

現在 (R5就農3年目)

露地野菜の栽培 (120a)
・曲がり葱、枝豆、雪菜、
イタリアン野菜等を仲卸業者に出荷。

- ・売上は目標の約90%、
所得率は40%以上を達成。

今後の目標 (就農5年後)

露地野菜の栽培 (150a)

- ・年間売上目標1000万。
- ・高単価収益野菜の選定と取引先の開拓。

藤澤 大和 さん (34歳)

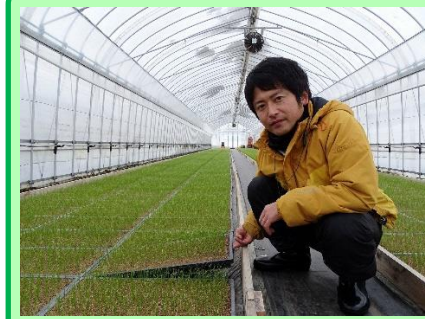
研修先：市町村研修施設
研修内容：ネギほか

新規就農を志した経緯・背景

民間企業に勤めていたが、地元で地に足のついた仕事をしたいと思い、就農を検討。実家の農業は祖父が担っていたが、他界後は大豆栽培の全作業を委託しており、どのような作物で就農するか決めかねていたため、市の研修施設で研修するとともに研修修了生や地元の農家の話を聞きネギ農家として就農することを決意。

資金の活用例

- ・農作業に必要な運転免許取得費（大型特殊、けん引、中型免許）等



研修中に工夫したポイント

- ・準備資金を活用して運転免許を取得(大型特殊、けん引、中型免許)
- ・先輩ネギ農家でインターンシップ研修に参加し、大規模栽培を体験。
- ・スムーズな就農に向け、翌年4月に定植するネギの育苗管理を10月から実施。
- ・研修中からJAネギ部会に積極的に参加し、地域のネギ生産者と交流を深め円滑な関係を構築。
- ・研修中に栽培したネギは秋田県種苗交換会において3位を受賞。

今後の取組

- ・ネギ生産者として安定した経営を目指す。
- ・所属する地域の稲作生産組合において、大豆栽培の中核となって運営に携わり、農を通じて地域を守っていききたい。

就農に向けた推移と今後

研修(R2～3)

- ・2年目から準備型を受給。
- ・ネギの栽培、育苗等を学ぶ。
- ・2年目は、先輩ネギ農家（元研修生）へのインターンシップ研修に参加。

就農準備(R2～3)

- ・資金を活用して大型特殊等農業に必要な免許を取得。
- ・親の農業経営を承継(全体)し、農地の利用権取得。
- ・国・県の補助事業等による農業機械導入の計画作成。

現在(就農2年目)

- ネギ(1.8ha) ※メイン
大豆(1.8ha)
- ・経営開始資金を利用。
 - ・2年目にネギの作付面積を拡大し(90aを利用権設定)、当初目標の面積・売上を達成。
 - ・国・県補助事業を活用し機械化を推進。

今後の目標(就農5年後)

- ネギ(3ha)
大豆(1.8ha)
- ・確固たるネギ栽培技術確立し、反収を増大するとともに規模を拡大。
 - ・ネギの出荷形態を見直し、高単価販売を拡大。
 - ・地域の稲作生産組合の中核として、地域農業を支える。

齊藤 勝久 さん（39歳）

研修先：先進農家

研修内容：野菜（座学、栽培実習等）

新規就農を志した経緯・背景

転職を考えていた際に、新・農業人フェアに参加したことがきっかけで就農を意識。その中で白鷹町の先進農家に出会い、実際に現地を訪れ体験を重ねるうちに、農業に魅力を感じ白鷹町で就農。

資金の活用例

- ・生活費
- ・就農準備費



研修中に工夫したポイント

- ・独立自営就農を見据えた実践的な研修を行い、研修先の先進農家から地元根付いた多くの栽培技術を学んだ。
- ・積極的に地元農業者と交流し、地域とのつながりを築き、町内直売所を活用した販路を確保した。

今後の取組

作業の効率性を向上させ、更なる収量、品質の向上による所得増を図る。

就農に向けた推移と今後

研修（H30～R2）

山形農業支援センター
合同会社 紺野農園

- ・平成30年に研修開始
- ・施設野菜、露地野菜の栽培管理。
- ・農業機械等の操作を
実践で学ぶ。

就農準備（R2～R3）

農業用機械の導入
農地の確保

- ・中間管理機構を活用し
農地を確保。
 - ・トラクター、軽トラック等
導入。
- 【農業収入100万円（R2）138万（R3）】

現在（就農3年目）

露地野菜（きゅうり、
キャベツ、ねぎ）

計 1ha

- ・町内直売所等に出荷。
 - ・ハウスを導入し施設
野菜へ挑戦。
- 【農業収入150万】

今後の目標（就農5年目以降）

施設・露地野菜 1ha

- ・安定生産を目指して、収量の
増、品質の維持に努める。
- ・病虫害防除等の技術研鑽に励む。

匿名希望さん（29歳）

研修先：農業学校
研修内容：水稻、野菜等

新規就農を志した経緯・背景

自然の中で働くことの気持ちよさや、自分で食物を栽培し収穫するという他業種では経験できない喜びや達成感があるということを実感し、鶴岡市立農業経営者育成学校（SEADS）に入校。

研修中に工夫したポイント

- SEADSに入校し様々な作目を幅広く研修していく中で、自分に合った就農スタイルや作目を模索していった。
- 研修1年目は農業基礎としてミニトマト、有機栽培水稻を中心に市内の先進農家の下で学び、2年目はその中から水稻に品目を絞って研修を行った。

資金の活用例

- 研修期間中の生活費
- SEADSの授業料



今後の取組

引き続き栽培技術の向上及び農業知識の習得に努め、雇用先の規模拡大・経営発展に貢献していきたい。

就農に向けた推移と今後

研修（R2～3）

水稻、ミニトマトを中心に研修

- 令和2年に研修開始。
- 準備型資金やアルバイト代により研修期間中の生計を維持。



就農準備（R3）

SEADSスタッフと研修修了後の就農についてイメージを固め、紹介された農業法人への就職が決定。



現在（就農2年目）

トマト栽培、水稻栽培に従事

- 並行して大型特殊免許や車両系の資格を取得
収入（240万円）、所得（180万円）。



今後の目標（就農5年後）

栽培技術の向上及び農業知識の習得に努め、雇用先である法人の規模拡大・経営発展に寄与したい。

中村 敦さん (47歳)

新規就農を志した経緯・背景

以前は会社員として働いていたが、大好きな自然に囲まれた豊かな環境で暮らしたいと思い、妻と共に就農を決意した。

就農した石岡市には、有機農業に取り組む先輩農業者がたくさんいて研修から就農・販売まで、支援体制が充実しているところが魅力的だった。

研修中～就農初期に工夫したポイント

- ・研修機関やOB等のサポートで、研修終了前から条件の合う農地を探し、土づくりを進め、JAS認証を受けておくことで、就農後すぐにJAの有機部会員として出荷することができた。
- ・就農1年目は技術不足から大きな不作に見舞われたが、リスクに直面したことで、天候不順等の厳しい条件での対応力とリスク分散の大切さを学んだ。
- ・6次化（ニンジンジュース）や独自販売ルート（ネット直販）の開拓に取り組むことで、収益性の向上等を実践した。

研修先：農業法人

研修内容：有機露地野菜（栽培実習等）

資金の活用例

- ・研修期間中の生活費
- ・農業機械等の購入費
- ・運転資金



今後の取組

より一層土づくりに配慮しつつ生産性を向上させるため、休耕や緑肥を組み込んだ「余裕を持った輪作体系」を構築できるよう、農地集積・規模拡大に取り組む。

無駄のない栽培計画を立て作業の効率化を進めることで、労働時間とのバランスをとりながら、経営を安定させたい。

就農に向けた推移と今後

研修・就農準備（H26～28）

- ・2か所の研修機関で研修。有機野菜の栽培技術を習得。
- ・準備型を活用して、研修中の生計を維持。
- ・研修中から土づくりやJAS認証を含めて農地を準備。

就農初期（H28～）

- JAやさと有機部会
露地野菜（多品目85a）
- ・研修機関やOB等の紹介で農地を借りて経営拡大。
- ・青年等就農資金を活用して、設備投資。経営開始型も受給。
- ・受給5年目には目標の所得250万円を達成。

夫婦型！

現在（R5、就農8年目）

- JAやさと有機部会・直売・宅配
露地野菜（多品目約2ha）
- ・部会員として安定出荷。
- ・6次化の取組みや販路拡大によって、所得を拡大。
- ・地元コミュニティで企画しているイベント（マルシェ）出店。

今後の目標（就農10年後）

- JAやさと有機部会・直売
露地野菜（多品目約3ha）
- ・先輩農業者として後輩を指導。
- ・SNSを活用したネット直販の拡大、地元コミュニティとのコラボ（マルシェ出店等）。
- ・6次化商品の充実（うどん）。

島野 優一 さん (30歳)

新規就農を志した経緯・背景

会社勤めで農業経験がなかったが、地元の先輩がいちごで新規就農し、手伝って見たら自分もやれそうな気がして妻に相談。先輩と同じ制度で1年間の研修を受け、妻も同じ農家で1年間働いてから独立自営就農した。

研修中に工夫したポイント

- ・とちぎ農業未来塾（就農準備専門研修IIコース：いちご）の座学と実習に加えて、いちご農家で1年間の研修を受けた。
- ・研修中に大型特殊免許及びけん引免許（農耕車限定）を取得した。
- ・自力で農地が見つからず、研修先農家や市農業公社に相談して、農地を取得（貸借）できた。
- ・青年等就農計画を作成する際、普及指導員や市役所、JA、研修先農家等に相談しながら施設整備内容を検討、市単補助事業を組み合わせ、自己負担額や融資借入額を抑えた。

研修先：とちぎ農業未来塾

研修内容：いちご（栽培技術実習等）

資金の活用例

- ・研修受講料
- ・交通費
- ・生活資金
- ・就農準備費用



今後の取組

当初計画の目標単収5t（とちおとめ）に対して、令和5年産実績7.5t（とちあいか）であり、年間農業所得も当初計画の目標250万円を2年目で達成したため、計画変更の申請により、目標を単収8t、農業所得1,100万円へ上方修正した。引き続き、家族経営協定に基づき常にふたりで協力し、定期的な休日確保、安定した経営を目指す。

就農に向けた推移と今後

研修・就農準備（R元～R2年度）

- R元：先輩農家の手伝い
- ・令和2年度とちぎ農業未来塾＋農家研修。
 - ・農地探し、青年等就農計画作成、資金等の申請。

就農（R3～4年度）

- ・いちご（とちおとめ、2年目からとちあいか導入）16a（パイプハウス6棟）育苗ハウス2棟、井戸ポンプ、予冷库、畝立て機等。
- ・1作目（2年目）から黒字化、開始型の夫婦型も活用。

現在（就農3年目）

- ・毎年、当初目標や部会平均を上回る好成績。
- ・品種は全量とちあいか
- ・パート2名導入。
- ・当初計画を変更（パイプハウス5棟、育苗ハウス2棟を増設等）。

今後の目標（就農5年後）

いちご 29.7a
単収8t／10a

- ・規模拡大に伴い、パート雇用5名体制で無理のない労働力確保。
- ・農業所得目標1,100万円。

永田 亮 さん (46歳)

新規就農を志した経緯・背景

民間企業に勤めていたが、農業に憧れがあり、東日本大震災を機に妻の実家がある板倉町で就農を決意。ＪＡ、指導センターに相談し主品目であるキュウリで先進農家において研修を行った。

研修中に工夫したポイント

- ・会社員の時の生活リズムと違うので、農家時間に身体のリズムを合わせるのに苦労した。
- ・ＪＡ青年部、消防団など地元組織に加入しコミュニケーションを積極的にとった。
- ・研修先の栽培技術すべてを吸収するつもりで研修を行っていた。
- ・空きハウスの情報を得るのに各種組織に加入していたので多くの情報を得ることができた。

研修先：先進農家
研修内容：施設野菜

資金の活用例

生活費、資材費など
就農用資金のための
貯蓄



今後の取組

- ・環境制御技術の向上に努め品質収量の向上を図っていく。
- ・ＪＡ、市町で新規参入を推進しており、今後も多くの新規参入者が入ってくると思われる。先輩として助言をしていきたい。

就農に向けた推移と今後

研修（H25～26）

先進農家において農作業全般を研修。

- ・ＪＡ青年部・消防団に加入。
- ・資金や妻のパート収入で生計維持。

就農準備（H26～27）

ＪＡ、研修先の紹介で空きハウスの賃借。

- ・研修を継続しながら、空きハウスを調査。
- ・営農の計画を作成。
- ・ハウスの補修費用として就農支援資金の借り入れ。

現在（就農9年目）

施設キュウリ28a
加工用レタス10a

- ・就農3年目に炭酸ガス発生装置導入。
- ・スタディクラブやＪＡ青年部代表理事として後輩の指導。

今後の目標（就農10年後）

経営面積は現状を維持し品質と収量の向上を図る。

- ・ＧＡＰ認証を取得し安全安心野菜を供給する。
- ・ミニキュウリなど珍しい品種を栽培し産直販売を行う。

埼玉県

松山 健吾 さん (31歳)

新規就農を志した経緯・背景

昔から農業に興味があり、大学卒業後北海道でJA主催による農家への派遣アルバイトに2年間参加したことをきっかけに、就農を考える。

東松山市での梨後継者育成事業の募集を知り、参加。その後、本格的に農業を始めようと、研修を受けることとなった。

研修中に工夫したポイント

- ・東松山市が行う農業塾(梨コース)に入塾し、他で働きながら月2回程度のペースで1年間栽培管理を学んだ後、経営研修として農業経営塾に入塾。応用研修として30aの梨園で指導農家からせん定や摘果、施肥方法など就農に向けての栽培管理を学んだ。
- ・栽培だけでなく販売実習も行っていたので、就農に近い形で研修を受けられ、経営面での問題点もはっきりした。
- ・研修で使用した樹園地をそのまま就農時に借り受けられたため、地域の生産者との繋がりが早くから出来、円滑に就農できた。

研修先：東松山市農業経営塾
研修内容：果樹

資金の活用例

- ・生活費



今後の取組

- ・梨で3haまで経営面積を拡大。収入3000万円を目指す。
- ・梨の状況を見ながら、毎年の気象変動に対応できる品種を取捨選択する。
- ・耕作放棄地の造園を進めている。

就農に向けた推移と今後

研修(平成29年～令和元年)

農作業全般販売
梨の栽培、せん定作業等

- ・平成29年、東松山市農業経営塾で研修開始。
- ・農業経営塾からの資材提供や資金を活用し、応用研修。

就農時(令和元年)

梨園(成園)50a・その他30a
うち研修中から使用 30a

- ・東松山市農業公社等の協力で、利用権設定に向け準備。
- ・青年等就農計画作成・青年等就農資金活用に向け、県・市の協力を得、準備。

現在(就農5年目)

樹園地(成園)170a
樹園地(未成園)30a

- ・未成園の30aは令和6年から収穫開始予定。
- ・まとまって使用できる農地を確保しつつある。

今後の目標(就農10年後)

梨300a

- ・目標収入3000万円
- ・規模拡大が進み、雇用するようになったら法人化を検討。

若菜 紘幸 さん (32歳)

研修先：先進農家

研修内容：野菜(座学、栽培実習等)

新規就農を志した経緯・背景

実家の大工を継いでいたが、婿入先が農家(酪農・イチゴ)で、近隣の大規模農家が儲かっているのを見て、農場で手伝いなどをするうちに農業に興味を持った。大工は仕事が限られ、儲からないので農家になろうと思った。

資金の活用例

- ・生活費



研修中に工夫したポイント

- ・農家研修中に経営計画の助言を受け、秋冬ニンジンを経営の柱として、ショウガ・ダイコン等を組み合わせる等、営農ビジョンを明確にした。
- ・販売先は、農家指導者と共にショウガ・ダイコンの契約販売を行い、ニンジンはJAの共選出荷を行うこととした。
- ・地元の組合やニンジン部会に参加して、地域の農家から中古の機械を譲り受けた。
- ・地域社会への参加により、地域の農家から農地の賃借ができた。ただし、耕作放棄地が多く、開墾の日々が続いたが、前職の重機の操作経験が役に立った。

今後の取組

- ・輸送費や労力不足が課題のため、なるべく経費のかからない販路や、泥付きや簡易選別など労力がかからない販路を開拓する。
- ・大規模栽培で必要な労力確保のために、雇用環境の整備に取り組む。

就農に向けた推移と今後

就農準備 (H31～R2)

研修 (H31～R2)

千葉市にて研修。
座学、栽培実習、農業機械、農家研修等

- ・平成31年に研修開始。
- ・H31.1～3に千葉市で座学と栽培実習等。
- ・H31.4～R2.1に農家研修。

農家研修中に営農計画の策定、農地(201a)の確保、農業機械の取得等に取り組む。

- ・地元の組合や部会に参加して、つてで農地や機械を取得した。

現在 (就農1～4年目)

露地野菜の大規模化に取り組み、作付面積12.9haで、ニンジン、ダイコン、ショウガ等をha単位で栽培。農業所得は当初の目標をほぼ達成。

- ・労働力は常時雇用3人、パート3人等。

今後の目標 (就農5年後)

誰もがやりがいのある農業を目指したい。

- ・経営者として儲かる農業。
- ・従業員が働いた成果にあった収入確保、休日確保。
- ・消費者にとって、おいしい野菜、値ごろ感、満足感のあるものを作りたい。

赤塚 功太郎 さん (27歳)

研修先：東京農業アカデミー八王子研修農場
研修内容：野菜（座学、栽培実習等）

新規就農を志した経緯・背景

農地と住宅が隣接している地域で育ち、食卓には近くで採れた野菜がならんでいた。大学を卒業した頃、近所の農家の厚意で農作業を手伝う機会に恵まれた。農作業を通して、自身の心身が安定することを実感するとともに健康であることの大切さに気づき、農業の魅力を知った。その魅力を農産物販売や収穫体験等に取り組むことで、自ら発信していきたいと考え就農を決意した。

資金の活用例

- ・生活費
- ・就農準備費



研修中に工夫したポイント

- ・早めに就農地を決めることで、自らの農業経営をイメージし、作付計画等をたてられた。
- ・就農地の農家と積極的に交流することを心がけることで、地元農家とのつながりを持てた。
- ・市や農業委員会等関係機関と農地確保のため積極的に相談した。

今後の取組

- ・現在、農地はすべて貸借であるが、農地購入も視野に農地の拡大を図る。
- ・援農ボランティアを積極的に活用し作業効率を図る。
- ・農産物販売のほか、収穫・作業体験にも積極的に取り組むことで、地域に根ざした農家となる。

就農に向けた推移と今後

研修 (R2.4~R4.3)

農業に必要な実践的な農業技術や農業経営に関する知識の習得

- ・令和2年に研修開始。
- ・次世代資金で生計維持。
- ・就農地での農家実習。

就農準備 (R2.10~R4.3)

研修と並行した農地の確保

- ・農地中間管理機構、農用地利用集積計画により、施設付き農地約30aを貸借。
- ・青年等就農計画の認定。



現在 (就農2年目)

約40aの農地で、コマツナやネギ、枝豆、人参等を生協や学校給食などに出荷

- ・学校給食出荷団体でのコマツナ出荷調整を担当。
- ・東京都エコ農産物認証取得。
- ・市や都の補助金で農業機械等購入。



今後の目標 (就農5年後)

約60aまで農地を拡大し、農業経営基盤を安定させ、地域の中心的な担い手へ

- ・販路にあった作付計画の構築。
- ・収穫体験等による作業効率向上と都市農業の発信。

飯野 広士 さん (44歳)

新規就農を志した経緯・背景

健康を考え食品を疑いながら食事した経験から、食の安全に関心を抱くようになった。特に生鮮野菜については加工しないで口にすることも多く、安全・安心な食品が広く求められていることを知り、生まれ育った神奈川県での就農を目指すに至った。

研修中に工夫したポイント

- ・就農希望地であった綾瀬市で、地域に溶け込み末永く農業を営みながら暮らしていくことを目標とした。
- ・研修中は、綾瀬市の特産品であるトウモロコシやブロッコリー等の栽培技術を重点的に学んだ。
- ・かながわ農業アカデミーのカリキュラムにある先進農家研修を、綾瀬市の卒業生の元で受けた。
- ・綾瀬市でのJAさがみ各生産部会の活動に、研修生として積極的に参加した。

資金の活用例

機械・農機具・
資材等の購入



今後の取組

- ・市外非農家出身の新規就農者として、綾瀬市で地域に溶け込み末永く農業を営みたいという同じ志を抱く研修生の受け入れや支援をする。
- ・トウモロコシ部会副部会長として、かながわブランドである「菜速あやせコーン」を行政や地域と一体になって更に発展させる。

就農に向けた推移と今後

研修 (H3 1.4~R2.3)

- ・野菜栽培の技術について
- ・農業機械の操作について
- ・土壌と肥料について
- ・農産物の加工について
- ・病虫害防除について
- ・複式簿記の記帳について
- ・出荷調製・販売について

就農準備 (H3 1.4~R2.3)

農地選定 (20a)

- ・綾瀬市で新規就農した先輩農家と市の農業振興課や農業委員会事務局を訪問。
- ・青年等就農計画の作成
- ・各種資格の取得。

現在 (就農4年目)

露地野菜 (240a)

- ・トウモロコシ、春秋レタス、ブロッコリー、キャベツ部会に加入。
- ・農地保全等の地域活動に参加。

今後の目標 (就農5~10年後)

生産技術向上
農を通じた地域貢献

- ・近年の天候に対応できる栽培技術の習得。
- ・綾瀬市の農業を維持・発展させるために活動。

工藤 奈津美 さん (39歳)

研修先：里親研修制度
研修内容：アスパラガス

新規就農を志した経緯・背景

民間企業で都会生活をするなかで、かねてから興味があった農業・地方の暮らしを決意。人柄・地域柄に惹かれ、飯島町へ移住。地域主力品目のアスパラガスのベテラン農家で栽培技術・経営ノウハウを研修。

研修中に工夫したポイント

- ・本人は県の里親研修制度、夫はＪＡインターン制度を活用し、別々の農家から研修を受け、夫婦同時に技術を習得。
- ・農地探しでは、自ら足を運んで候補となる農地を探し、町と里親に加え、地域の農業法人、営農組合の協力を得て、候補地を選定。候補の全農地で排水性調査、水路等を確認し、栽培適地を選択。
- ・経営に関する知識習得のため、農業経営講座の受講や簿記、ＦＰの資格を取得。
- ・研修先のほか、農業法人で他品目の栽培も勉強。地域の人脈づくりも。

資金の活用例

生活資金

生活面での心配なく、就農に向けて準備に集中できた。



今後の取組

- ・目標をさらに高く設定し、お世話になった地域の皆さんに恩返しができるような一人前の農家を目指す。
- ・つくるだけの農家ではなく、イベント等の対面販売で顧客の笑顔、つながりを大切にする農家になる。

就農に向けた推移と今後

研修・就農準備（Ｒ２～Ｒ３）

- ・Ｒ２からアスパラガスの専業農家で研修開始。夫はＲ３からＪＡインターン制度で研修開始。
- ・研修先その他、新規就農仲間からハウス建設方法、農業法人から他品目の栽培技術を習得。
- ・農業法人等の協力で農地を確保。

現在（就農２年目）

- アスパラ約20a（４～10月長期どり）
※白ネギの委託管理もあり
- ・早期から収穫できるよう大苗で定植。
 - ・目標としていた第一段階の所得目標をクリア。
 - ・ＪＡ、直売、ネット販売と複数の販売チャネルを確保。

夫婦型で
農業経営

今後の目標（就農５年後）

- ・アスパラガスのほか、露地野菜等で規模を拡大。
- ・作業効率を意識したスキルアップ。
- ・新たな販路を開拓し、利益率の向上。
- ・環境に左右されない安定的な供給体制の確立。